

アフガニスタンの現状

—なぜタリバンは復権し得たのか—

清水 竹人

1. 人々の生きる環境

平均寿命 男性 45歳／女性 44歳

識字率 男性 43.1%／女性 12.6%

困難な女性の就学、就労

出産時の母親死亡率 2%近く

女性が住みにくい国 世界第2位（2011年）

●民主化が進み、女性の地位が向上したと言われるが…

- 女性の焼身自殺・・・2011年だけで約2,300件
- レイプは日常茶飯事
- 公開処刑
- タリバンから占領軍へ、またタリバンへ
- 自由のない日常生活
- テロとの戦いではなく、一般市民に対する戦争
- タリバンとの裏取引
- 腐敗した政権
- 麻薬大国化
- 原理主義者、軍閥、腐敗政権の大同団結
- 声をあげ始めた民衆

2. RAWA（アフガニスタン女性革命協会）

● 結成と活動

- **Revolutionary Association of Women of Afghanistan**
- 1977年、カブールで結成
- リーダーは当時20歳のミーナ
- ソ連軍と占領に抵抗
- 平和、女性の人権、民主主義を求め、原理主義に反対
- 全国に約3000人のメンバー
- 男性の支援者も多数
- 今なお地下活動



ミーナの詩より

私は目覚めた女性
私は立ちあがり、
子どもたちが焼かれた灰の中から嵐となる
私は兄弟たちが流した血から立ちあがった
この国の怒りが私に力を与え
略奪され、焼き払われた村々が敵への憎悪をかきたてる
あゝ同胞よ、私はもう弱くはないし、無能でもない
私の声は幾千もの目覚めた女性たちの声と合わさり
こぶしは幾千もの同胞と固く握りあう
奴隷の苦しみから解き放つために
あゝ同胞よ、私は今までの私ではない
私は目覚めた女性
私は己の道を見つけた
決して後戻りはするまい



● RAWAの言う「革命」とは？

- 女性も教育を受けることのできる社会
- 女性も職に就ける社会
- 女性も男性と同じ権利が認められる社会

それが実現されたら革命的なこと
社会主義を目指しているわけではない

● 女性が自立するために

- 識字教育と職能訓練
- 政治参加

3. マラライ・ジョヤ ～アフガニスタンで最も勇敢な女性～

● マラライ・ジョヤ、その略歴

- 1978年、アフガニスタン西部のファラー州に生まれる
- 4歳から16年間にイラン、パキスタンで難民生活
- RAWAの学校で教育を受ける
- タリバン政権下、OPAWC（アフガン女性能力促進協会）で地下活動
- 2003年、ファラー州代表としてロヤ・ジルガに参加し、軍閥を批判する演説をおこない、世界から「アフガンで最も勇敢な女性」と賞賛される
- 2005年、27歳で最年少国会議員に
- 軍閥・原理主義批判により、議員資格を剥奪される
- 欧米、豪州などで占領の終結、民主主義の実現、女性の解放を訴え、世界を駆けめぐる
- 多くの知識人が欧米に脱出する中、アフガニスタンにとどまる
- これまでに5回の暗殺未遂を切り抜ける
- 教育の重要性を強調



YouTube から The brave and historical speech of Malalai Joya in the LJ

● マラライ・ジョヤ、自叙伝を執筆

Raising My Voice（2009年7月）イギリス、オーストラリア
A Woman Among Warlords（2009年10月）アメリカ、カナダ

各国語に翻訳される

Ich erhebe meine Stimme（2009年8月）ドイツ語
Kvinne blant krigsherrer（2009年9月）ノルウェー語
Au nom de mon peuple（2010年2月）フランス語
Een vrouw tussen krijgsheren（2010年2月）オランダ語
Finch avr voce（2010年2月）イタリア語
Min lykkes fjender（2010年3月）デンマーク語
Jóia Afegã, Uma Mulher Entre os Senhores da guerra（2010年5月）ポルトガル語
Una mujer contra los senores de la guerra（2010年6月）スペイン語
מלחמה אדוני בין אישה（2010年11月）ヘブライ語
In numele poporului meu（2010年11月）ルーマニア語版
A Woman Among Warlords（2011年11月）インドネシア語版
アフガン民衆とともに（2012年2月）日本語版

● 2011年10月、マラライ・ジョヤ来日

16日 広島まちづくり市民交流プラザ
18日 那覇市教育会館
19日 沖縄国際大学
21日 大阪女学院大学
22日 同志社大学
23日 大阪吹田さんくすホール
25日 参議院議員会館
26日 明治大学
27日 名古屋学院大学
28日 大阪大学
29日 京都大学

● マラライ・ジョヤの闘い、その後

- RAWAのメンバーではないが、RAWAと共通する思想・目標
- 光州人権賞、アンナ・ポリトフスカヤ賞などを受賞
- 2006年、選挙戦をたたかう様子を、デンマークの女性監督エヴァ・ムルヴァドがドキュメンタリー映画『幸福の敵』で紹介。2008年、ベルリン国際映画祭で平和映画部門賞を受賞

● 教育こそ

- 父親の影響
- 成人女性への識字教育を担当（RAWAの学校で）
- ヘラートで女子教育を実践（OPAWCの活動）
- 大学には進まなかったが、著書にベルトルト・ブレヒト、マーチン・ルーサー・キング牧師、サマド・ベフランギーらの作品を引用。マクシム・ゴーリキー、ジャック・ロンドン、ラングストン・ヒューズ、イランの反体制派詩人アシュラフ・デフガーニなどを読み、マハトマ・ガンジーやチェ・ゲバラの伝記に触れ、パトリス・ルムンバやビクトル・ハラの生涯に影響されたという。

● その素顔

- 政治家としてのカリスマ性は十分に持ち合わせているが…
- 社会活動家
- 子どもたち、学生が大好き

自由とは他国によってもたらされるものではない。自ら闘って勝ち取るものである。大地に種をまき、血と涙を注いで育むことによるのみ芽吹き、生長するのだ。

「真理は太陽のごとく。いったん空に昇らば、何人もこれを遮ることを得ず。また、これを隠すことを得ず」—アフガンの格言である。

ささやかとはいえ、本書が、そして私の物語が、いつも太陽の輝きとならんことを。どこであろうと、読む人たちに勇気を与えんことを。平和と正義、民主主義を求める闘いの助けとならんことを。

（『アフガン民衆とともに』より）



4. RAWAと連帯する会

- 2004年、RAWAを支援するために設立
- RAWAメンバーによるスピーキングツアー
- アフガニスタン、パキスタンへのスタディーツアー
- RAWA運営の学校の資金援助
- 機関誌発行
- RAWAとアフガニスタンに関する書籍の出版

詳しくは…

- RAWAのウェブサイト <http://www.rawa.org/>
- マラライ・ジョヤのウェブサイト <http://www.malalaijoya.com/>
- OPAWCのウェブサイト <http://www.opawc.org/>
- RAWAと連帯する会のウェブサイト <http://rawajp.org/>

<参考>

- メロディ・A・チャビス、『ミーナ：立ちあがるアフガニスタン女性』、耕文社、2005年、ISBN 978-4-906456-63-5、¥1,800。
- アフガニスタン国際戦犯民衆法廷実行委員会（編）『アフガニスタン女性の闘い 自由と平和を求めて』、耕文社、2003年、ISBN 4-906456-45-6、¥1,000。
- RAWA（編）、『声なき者の声』、耕文社、2004年、ISBN 4-906456-53-7、¥1,500。
- 川崎けい子（監督作品）、『RAWA アフガニスタン女性の闇に光を』、オフィス・スリー・ウェイ、2007年、DVD・25分、¥3,500。
- マラライ・ジョヤ、『アフガン民衆とともに』、耕文社、2012年、ISBN 978-4-86377-023-2、¥1,700。
- 清水竹人、「アフガンで最も勇敢な女性—マラライ・ジョヤの闘い」、『広島ジャーナリスト』第7号、2011年12月、pp.32-36。
- Eva Mulvad (film), *Enemies of Happiness*, Denmark, 2007, DVD, 59 mins. デンマークのドキュメンタリスト、エヴァ・ムルヴァド氏が国会議員選挙に出馬したマラライ・ジョヤを未着取材して制作した映像作品。2007年2月20日、NHK BS『世界のドキュメンタリー』で「祖国に幸せを 女性代議士の闘い」という題で放送された。
- 清末愛砂、前田朗、桐生佳子（編）、『平和とジェンダー正義を求めて アフガニスタンに希望の灯火を』、耕文社、2019年、ISBN 978-4-86377-058-4、¥1,000。
- 清末愛砂、久保田桂子（絵）、『《世界》がここを忘れても』、寿郎社、2020年、ISBN 978-4-909281-26-5、¥1,800。
- 清末愛砂、『ペンとミシンとヴァイオリン アフガン難民の抵抗と民主化への道』、寿郎社、2020年、ISBN 978-4-909281-27-2、¥1,500。